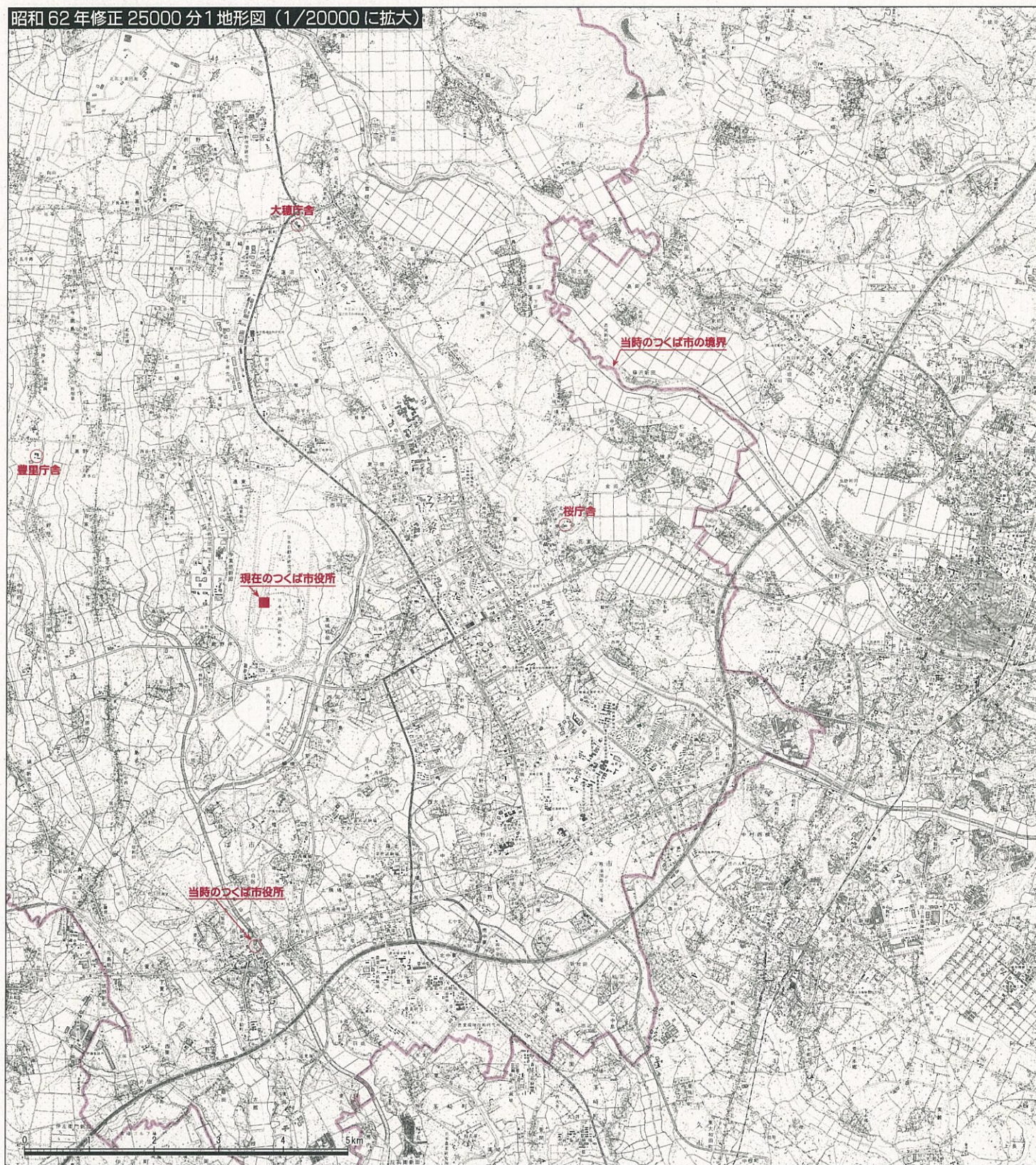


つくば市が誕生したころの学園

昭和 62 年修正 25000 分 1 地形図 (1/20000 に拡大)



この地図は、つくば市が誕生した昭和 62 年に作成 (修正) された 25000 分 1 地形図です。つくば市の成立時には谷田部町役場が新市の市役所となり、他の町村役場は、新しい市の行政を分担する支庁舎となりました。この地図が作られたころは、つくばエクスプレス (TX) は開業しておらず、まだ沿線の開発前で、「自動車研究所」のテストコースが残っています。

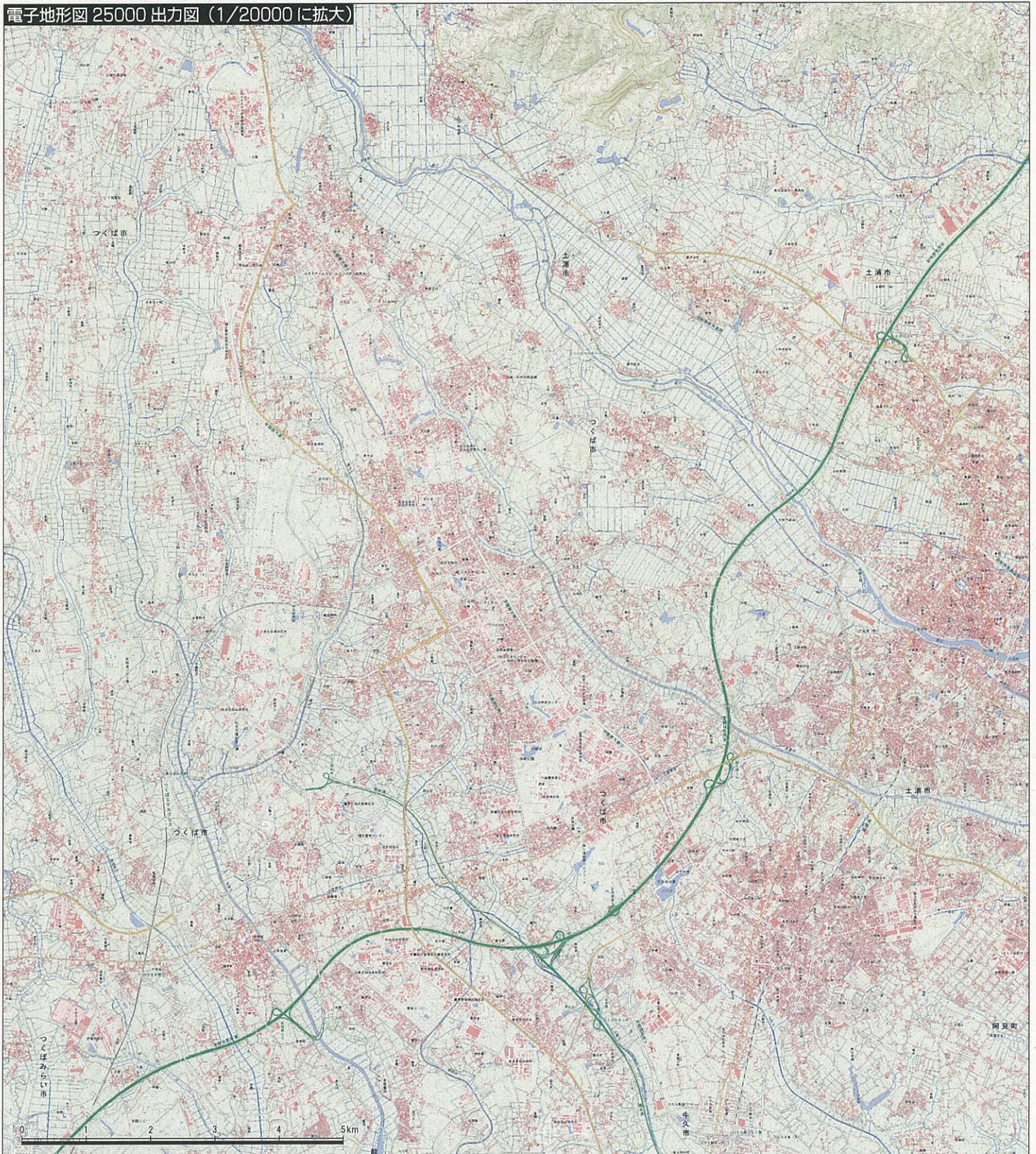
現在の市役所は、同研究所の施設の一部が移転した跡の研究学園駅周辺開発地区に新設されています。筑波西部工業団地が造成されているところは、科学万博の会場跡地です。



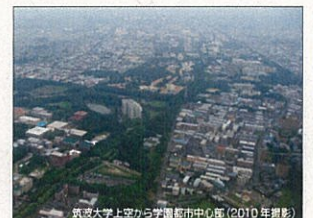
TX 沿線開発で廃去工事中のテストコース (2005 年撮影)

現在の学園都市とその周辺

電子地形図 25000 出力図 (1/20000 に拡大)



この地図は、「電子地形図 25000」から出力した現在の学園都市とその周辺です。研究学園都市建設の閣議了解から 50 年。それまで台地の上に広大な平地林が広がっていた農村地帯に街の建設が進み、鉄道や高速道路・幹線道路が整備され、「つくば」は都市として大きく変貌しました。昭和 35 年当時 6 町村合わせて約 8 万人（茨城県史資料）だった人口は、今は約 22 万人（平成 25 年 9 月 1 日現在 つくば市資料）に増加しています。

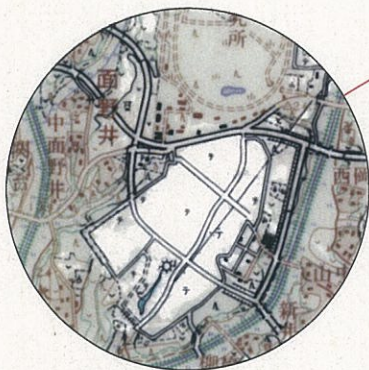


筑波大学上空から学園都市中心部 (2010 年撮影)

5 万分 1 地形図修正原図に記録された 学園都市とその周辺の変化

現在はコンピュータを使って地図を作成していますが、それ以前はペン画等で原図を作成した後、スクライプ法により製図をしていました。修正作業で作成された原図を見ると、もとの地図のどこの部分に手を加えたかが一目でわかります。

ここに展示した図は、平成元年度に修正作業を行った 5 万分 1 地形図「土浦」の修正原図と注記資料図です。前回の修正は昭和 58 年なので、この間には、科学万博の開催（昭和 60 年）、つくば市の誕生（昭和 62 年）などがあり、学園都市が大きく変貌しています。幹線道路をはじめとした変化や、市町村界の変更などを見ることができます。



科学万博の跡地が、筑波西部工業団地として整備され始めるころです。「テ」は地形図上に空き地として表示される部分で、まだ工場の進出がなく、「さら地」の状態であることを示しています。



科学万博の際に整備された学園西大通りの延伸部分が表示されています。また、昭和 61 年の牛久市の市制施行に伴い荊崎町や阿見町との境界が市郡界の記号に書き改められています。

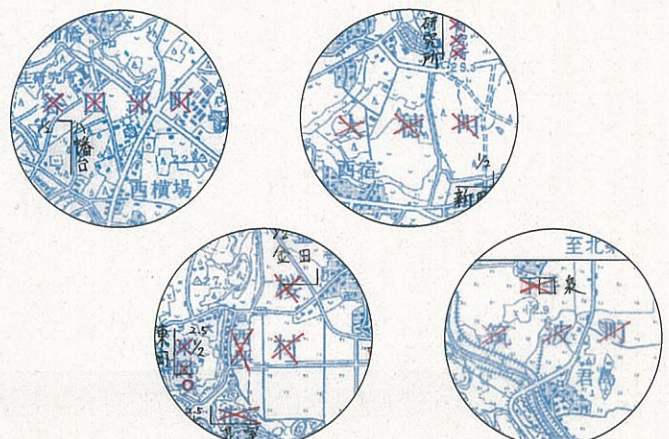


科学万博開催期間中、土浦駅と学園を結ぶシャトルバスが通行する道路として開通した土浦高架道が書き入れられています。一方、昭和 62 年に廃止された筑波鉄道が地図上から削除されています。

注記資料図

昭和 62 年 11 月に、谷田部・豊里・大穂・桜の 4 町村が合併してつくば市が誕生しました。

平成元年修正作業の注記資料図を見ると、左の図の部分では「豊里町」という注記を削除して「つくば市」を新たに表示するよう指示されています。あわせて旧豊里町役場の記号を削除するよう指示（図の左手の○）されています。同様に、「谷田部町、大穂町、桜村」の注記、さらに昭和 63 年 1 月に編入された「筑波町」の注記も削除するよう指示されています。（下の図の部分）



写真で見る学園都市の建設

国土地理院の建設予定地

1971 年撮影



学園東大通いと花室（竹園）住宅

1974 年撮影



建設中の西大通いと国土地理院

1976 年撮影



土ぼこりの土浦学園線学園東交差点

1976 年



写真で見る学園都市の建設

下平塚給水場付近の西大通り

1976 年撮影



並木地区公務員住宅 409 棟

1976 年撮影



先行移転した機関職員の入居始まる

1978 年



吾妻 4 丁目住宅

建設中の春日独身寮 205 棟

1978 年撮影



写真で見る学園都市の建設

最寄駅の荒川沖駅西口

1978 年撮影



通勤通学自転車であふれる駅前

1978 年撮影



学園東大通いと並木大橋

1978 年撮影



校庭整備の進む並木小学校

1978 年撮影

